

ドロボー

テレビは時間ドロボーである。疲れて家に帰ってきて、もうなんにもする気がしないときなど、ついテレビをつけると、なんだかにぎやかに騒いでいたり、その日のスポーツの結果を繰り返し映したりしているから、ぼーっと見てしまう。見ている番組が終わると今度はもの足りなくなって、チャンネル切り替えのコントローラーを探し出し、パッパッパッと、じつに便利に画面を変えていく。あんまり見たいと思う番組はなくても、ピーナツを食べはじめたのと同じで、中毒に近くなっている。無いとももの足りないから、画面を消さないのである。

そうやって30分単位で時間を盗まれ続けて、結局深夜の映画を見終わったら、明け方の4時に近かった、という経験がある。それですっかり生活のリズムが狂ってしまう。目に悪い、体に悪い、アタマに悪い、などと勝手なことを言うけれど、テレビ局としては、どんな手段を使っても、視聴者を画面に惹きつけておくのが商売であるから、それに引っかかるこちらが悪いのである。

翌日、人に会って、昨日のテレビの話をしてみると、みんな見ていたとみえて、じつによく話が通じる。みんな時間ドロボーにあっていたのである。その時間にアタマを使って読書をする、会話を交わすというのではなく、みんな私と同じようにぼんやりして、光り輝く画面を眺めてアホになっていたのである。

逆にテレビを見ていなければ、人と話が通じない。マンガを読んでも、ギャグ

わか
が解らない、クロスワードパズルも解けないということになる。

しず あき つき なが け でんとう け まど あ はな りん
静かに秋の月でも眺めようと、テレビを消し、電灯も消して窓を開け放つと、隣

か だいおんせい わら こ
家のテレビの大音声とバカ笑いがとび込んでくる。